

**金沢市文化芸術アクションプラン骨子（案）について  
パブリックコメントでのご意見の概要と金沢市の考え方**

募集期間：令和2年12月22日（火）～令和3年1月20日（水）

意見：意見数11件、意見者数6人

NO.	ご意見の概要	金沢市の考え方
<b>計画全般について</b>		
1	基本理念と将来像で記載されている取組について、現時点での「あるものの活用」以上のものになっておらず、これまでにあるものの再活用・再活性化のためにも、どのような「これまでにないもの」を生み出し、創り上げるのが重要ではないだろうか。	計画を推進していくにあたり、既存の文化芸術資源の継承・活用だけでなく、新たな文化芸術の創造に向けた取組も併せて必要だと考えており、ご意見については、今後の施策の参考にさせていただきます。
2	文化は一つの都市の内側だけで発展するものではなく、他所の伝統を積極的に引き受け、様々なジャンルがお互いを再活性化し合いながら共存する環境が必要であり、そのような意味での「芸術交流拠点都市」金沢を目指すべきである。	計画では、国内外との交流、分野を超えた交流の推進が必要であると考えており、ご意見を参考に、計画を推進していきます。
<b>&lt;将来像2&gt;文化芸術を育むまち</b>		
3	学校などで文化芸術を学ぶ授業や、文化芸術を体験する機会を増やすことで、興味を持つ人が増えると考えます。	計画では、ライフステージに応じた文化芸術を学び習熟できる機会を提供するとしており、中学生、高校生を含め様々な世代が文化芸術に触れる機会の充実を図っていきます。
4	中学生や高校生のうちに文化芸術に触れる機会があれば、職業選択の幅が広がるのではないかと考えます。	

5	<p>文化芸術イベント等について、SNS や大学を通じた広報などで若い世代にもっと宣伝したらよい。</p>	<p>文化芸術の「支え手」育成の観点から、若い世代の文化芸術への関心を高めることが必要だと考えており、ご意見を参考に、効果的な発信手段を研究・検討しながら計画を推進していきます。</p>
6	<p>アーティストから見た金沢の美術工芸の現状として、①発表の機会が少ない、②コレクターがいない・育たない、③金沢美術工芸大学の卒業生が金沢に残らない、④アーティストと金沢 21 世紀美術館学芸員の接点はほとんどない、⑤美術関係者の行く場所がない、⑥市民がアーティスト本人や作品と接する機会が少ない、⑦コロナ以降、ギャラリーの運営や作家の発表が困難という状況が挙げられることから、金沢に潜在的に存在する優秀な人材を担保し、美術文化都市として金沢市全体が魅力を発揮するために、金沢市内の空きビルや空き家を使った拠点づくりを提案したい。拠点については、①アーティスト・イン・レジデンス、②アーティスト居住スペース、③フリーなキュレーターが運営する実験的なギャラリー、④アーティストが運営する地域コミュニティカフェ等として活用することが考えられる。</p>	<p>文化芸術の人づくりや文化芸術の醸成・交流の観点から、担い手の活躍の場、交流の場の創出が必要だと考えており、ご意見については、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>
7	<p>展示スペースやアーティスト・イン・レジデンスなど、若いアーティストが育つための拠点を多く作って欲しい。そうしたスペースがあることは若いアーティストの励みになると思う。</p>	<p>計画を推進していくにあたり、担い手の育成につながる発表や交流の機会の創出が必要であると考えており、ご意見については、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>

8	アーティストがより伸び伸びと制作できるような経済的なサポートシステムがあると嬉しい。	ご意見を参考に、様々な施策を研究・検討しながら計画を推進していきます。
<b>&lt;将来像3&gt;文化芸術を支えるまち</b>		
9	金沢歌劇座の改修が、北陸を代表する舞台芸術、演劇やパフォーミングアーツの拠点として整備され、金沢のブランド価値をさらに高める存在となるよう計画してゆくことを望む。	計画では、「文化芸術を支えるまち」の実現に向け、文化施設機能の強化を進めることとしています。
<b>&lt;将来像4&gt;文化芸術を誇れるまち</b>		
10	まち全体が「芸術交流活動の場」となるような環境を整備していくうえで、多くの若者がその存在を理由に移住先に選ぶ、もしくはアーティストが一度は直接関わりたいと思うほど刺激的で、かつ、学生や市民に開かれ、参画性を高める場所となるような新しい組織やハブとなる拠点が必要だと考える。この点で、将来像4の取組のうち、新たなコラボレーションを促進する場としてのアーティスト・イン・レジデンスの展開が最も現実的で有効な施策であり、そのための組織やスキーム、拠点の開発を急ぐことが望ましい。	「文化芸術を誇れるまち」の実現のためには、コラボレーションを促進するための交流機会の創出や、国内外との文化芸術交流の推進が必要であると考えており、ご意見を参考に、効果的な施策を研究・検討しながら計画を推進していきます。
11	(将来像4)文化芸術を誇れるまち-「②国内外との交流を推進する」について、「国内外からアーティストも含めて参加するダイバーシティなイベントの開催」といった内容を含むようにしてはどうか。	年齢、性別、障害の有無に関わらず、誰もが等しく文化芸術の機会を享受する権利を持っていることを踏まえ、多様性を尊重して計画を推進していくことが大切であると考えており、ご意見については、今後の施策の参考にさせていただきます。

(注) ご意見については、一部要約して記載しております。